2018冬期スケジュール　国際線定期便の概要

国土交通省

2018冬期スケジュール（2018年10月28日～2019年3月30日）期間の事業計画について、航空会社122社※（本邦9社/外航113社）から申請があり、10月24日付で認可。 ※コードシェアのみの事業を行う10社を含む。

運航便数全体の動向（注：当初認可時における第1週目の運航便数、今後期中での増減はあり得る）

旅客及び貨物便合計で**過去最高の5,594.5便/週**。

本邦社：**1,471.5便/週**（全体の26.3%）（ ’17冬期比-15.5便/週・ ’18夏期比-44.5便/週）

外航社：**4,123便/週**（全体の73.7%）（ ’17冬期比+323便/週・ ’18夏期比+164.5便/週）

主な動向

○方面別の動き： LCCを中心とした韓国、台湾及び中国方面の顕著な増加。

(主な増加)

【 韓　国 】**済州航空**が成田／関西／新千歳／中部／福岡／那覇／松山／鹿児島=仁川線、成田／鹿児島=大邱線、関西=務安／清州／グアム線を**増便**。**イースター航空**が新千歳／那覇／茨城／宮崎／鹿児島=仁川線、関西=釜山／清州線を**増便**。**大韓航空**が関西／福岡=仁川線、新千歳=釜山線をそれぞれ**増便**。

【 台　湾 】**スターフライヤー**が中部=台北線、北九州=台北線を**初就航**。**バニラエア**が那覇=台北線を**増便**。**華信航空**が成田=台中線、**タイガーエア台湾**が茨城=台北線、佐賀=台北線をそれぞれ**初就航**。

【 中　国 】**山東航空**が関西=済南線を、**中国東方航空**が関西=大連／太原線を、**中国南方航空**が関西=大連線、中部＝広州線を、**天津航空**が関西=天津線を、**厦門航空**が関西=杭州線をそれぞれ**増便**。

○地方空港の動き：近距離アジア路線の着実な増加

北九州空港及び**熊本空港**にティーウェイ航空(韓国)が、**茨城空港**及び**佐賀空港**にタイガーエア台湾がそれぞれ**初就航**。’18冬期中には**旭川空港**へ済州航空(韓国) が、**徳島空港**へ香港ドラゴン航空がそれぞれ**就航予定**。また、**大分空港**へ大韓航空が、**山口宇部空港**にエアソウル(韓国) がそれぞれ**冬期運航を継続**。

○LCCの動き：継続的なLCC比率の拡大

’18夏期比で＋120.5便/週(うち韓国社による増便が92便/週)となり、**旅客便数に占めるLCC比率が28.6%**に。

2018冬期 国際線　旅客・貨物別動向

国土交通省

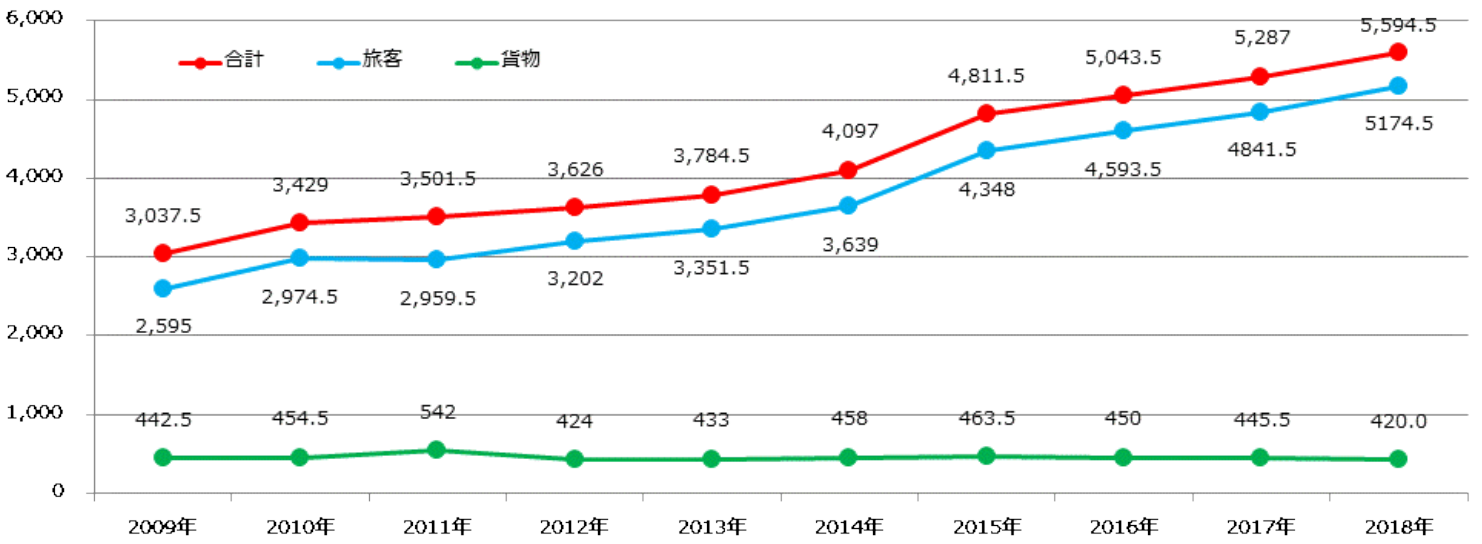
【旅客便】増便傾向を維持し過去最高便数に。特に関西及び那覇空港での増便が寄与。
【貨物便】昨年と比べ、本邦社の生産体制見直し等により、大幅な減便となっている。

単位：便/週

空港	2018 冬期	18夏期比	17冬期比	2018 夏期	2017 冬期
旅客					
成田	1,651	-21.0	30.0	1,672	1,621
羽田	790.0	6.5	14.5	783.5	775.5
関西	1,291.0	80.5	133.5	1,210.5	1157.5
中部	340	13.0	14.0	327	326
地方	1,102.5	79.5	141.0	1,023	961.5
福岡	372	2.0	25.5	370	346.5
那覇	230	28.0	43.0	202	187
新千歳	186.5	17.5	18.5	169	168
その他	314	32.0	54.0	282	260
計	5,174.5	158.5	333.0	5,016	4,841.5
貨物					
成田	235.0	-21.5	-18.0	256.5	253
関西	139.5	-9.0	-1.5	148.5	141
中部	19.5	-0.5	-0.5	20	20
地方	26.0	-7.5	-5.5	33.5	31.5
那覇	20.0	-7.5	-7.5	27.5	27.5
その他	6	0.0	2.0	6	4
計	420.0	-38.5	-25.5	458.5	445.5
全体					
成田	1,886.0	-42.5	12.0	1,928.5	1,874
羽田	790.0	6.5	14.5	783.5	775.5
関西	1,430.5	71.5	132.0	1,359	1,298.5
中部	359.5	12.5	13.5	347	346
地方	1,128.5	72.0	135.5	1,056.5	993
福岡	372	2.0	25.5	370	347
那覇	250.0	20.5	35.5	229.5	214.5
新千歳	187	17.5	18.5	169	168
その他	320	32.0	56.0	288	264
計	5,594.5	120.0	307.5	5474.5	5,287

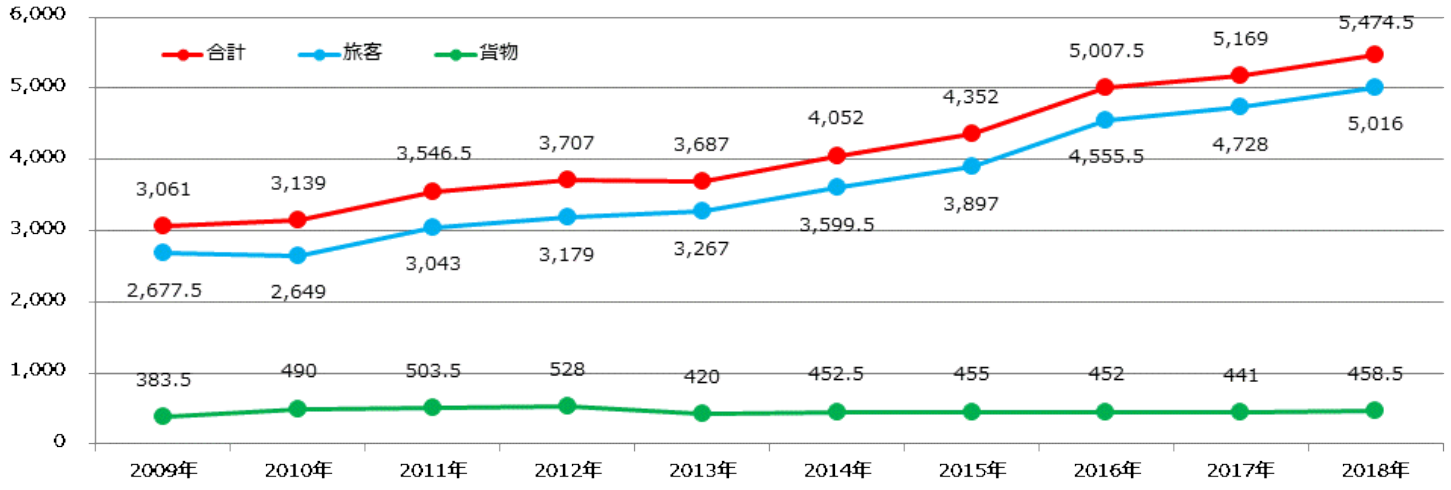
冬期スケジュール推移

単位：便/週



夏期スケジュール推移

単位：便/週



2018冬期 国際線（旅客・貨物便）国籍別動向

国土交通省

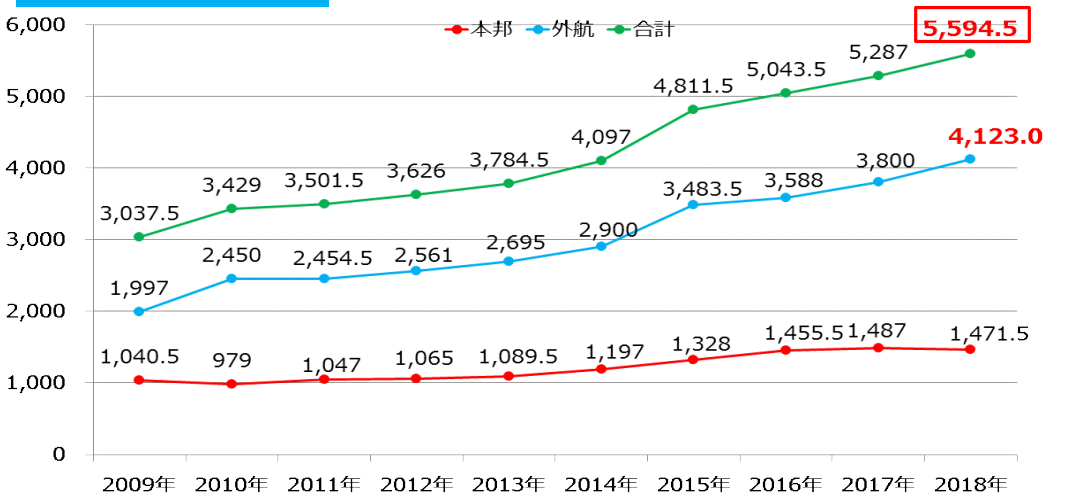
【本邦社】1,471.5便/週（ ’17冬期比-15.5便/週・ ’18夏期比-44.5便/週）
【外航社】4,123便/週（ ’17冬期比+323便/週・ ’18夏期比+164.5便/週）
国籍別最多は韓国社で1,153便/週（外国企業のうち28%）、次に中国社で790.5便/週（同19.2%）。
また、便数の増加が最も多いのは韓国社で’18夏期比+113便/週、次いで中国社も同比+34.5便/週。

単位：便/週

航空会社国籍	2018 冬期	18夏期比	17冬期比	2018 夏期	2017 冬期
日本企業	1,471.5	-45	-15.5	1,516	1,487
外国企業	4,123.0	164.5	323	3,958.5	3,800
韓国	1,153.0	113	140.5	1,040	1,012.5
中国	790.5	34.5	56.5	756	734
台湾	440.0	17	35	423	405
香港	379.5	7.5	30.5	372	349
東南ｱｼﾞｱ	536.0	29.5	64	506.5	472
その他ｱｼﾞｱ	35.0	1	0	34	35
米国	448.5	-36	-32.5	484.5	481
ﾖｰﾛｯﾊﾟ	203.0	2	27	201	176
ｵｾｱﾆｱ	54.0	-4	1	58	53
中東	54.5	1	0	53.5	54.5
その他	29.0	-1	1	30	28
計	5,594.5	120	307.5	5,474.5	5,287

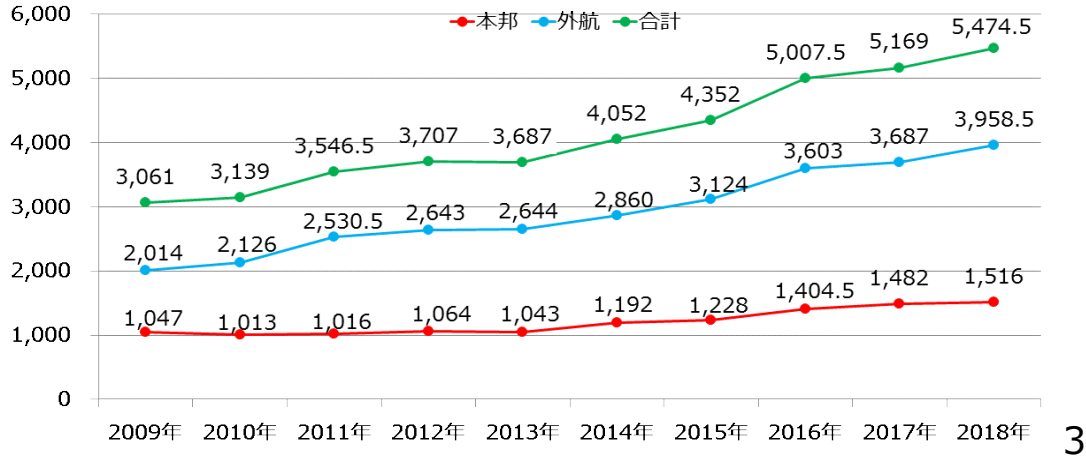
冬期スケジュール推移

単位：便/週



夏期スケジュール推移

単位：便/週

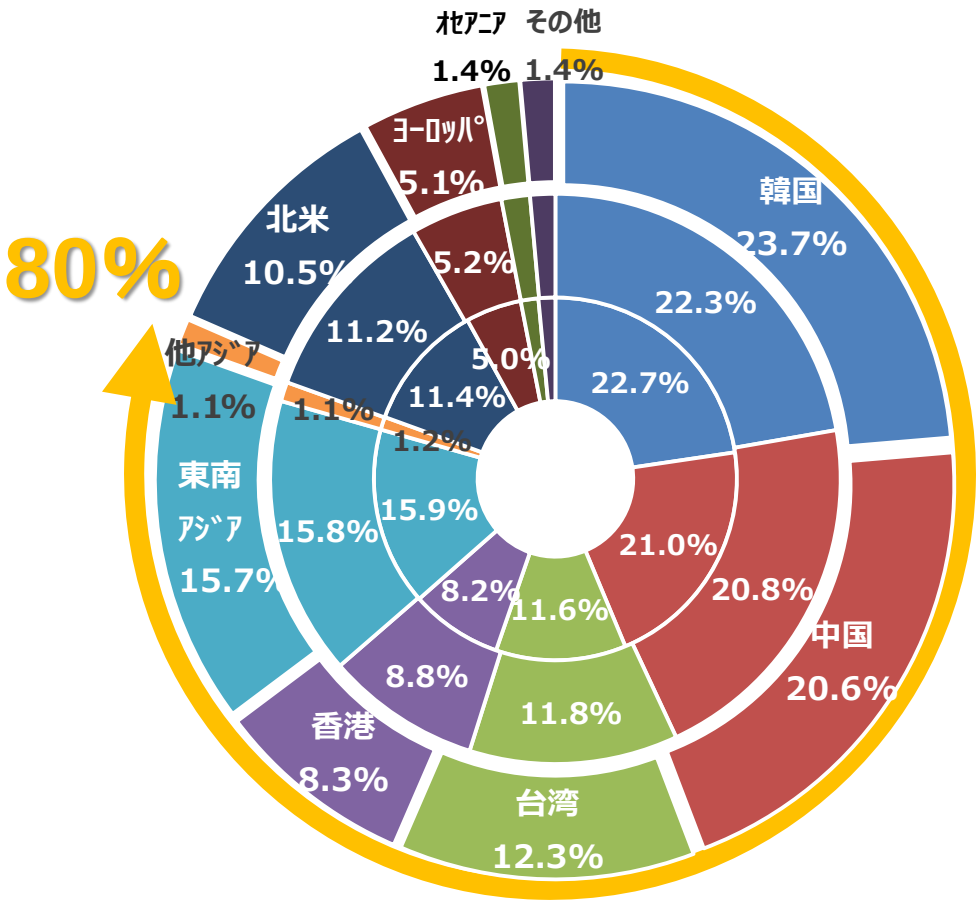


2018冬期 国際線（旅客便）方面別・空港別内訳

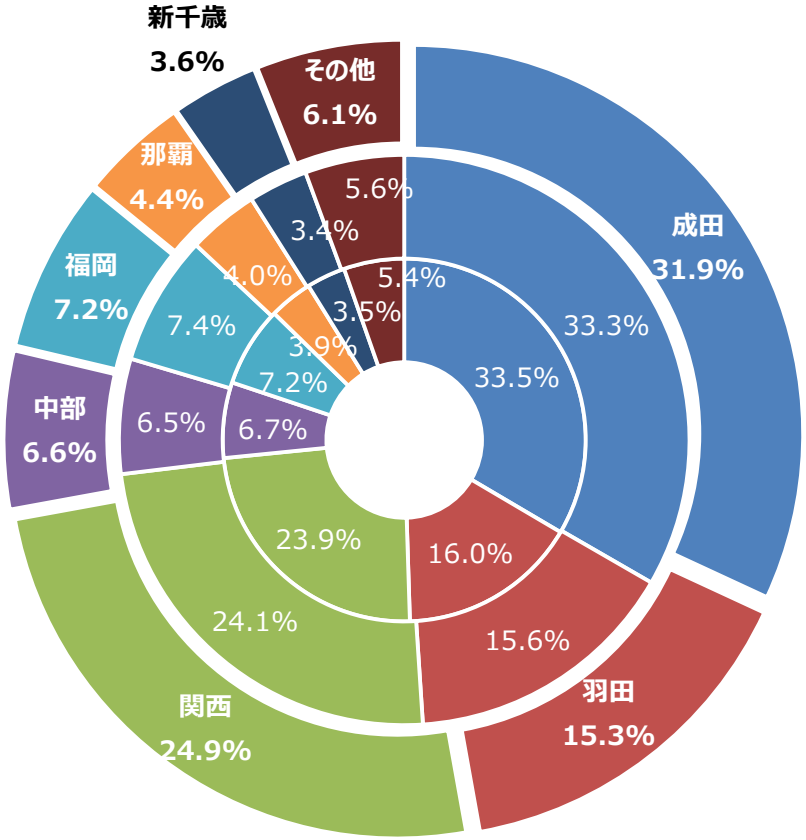
国土交通省

【方面別】アジア方面の便数が全体の約80%を占める。アジアの中で最多は韓国方面で、次いで中国方面、台湾方面の順。シェア順位に変動はないがシェア増加が目立つのは韓国及び台湾方面。
【空港別】成田・羽田空港で全体の約半数を占めるが、成田・羽田空港以外でのシェア拡大により、成田・羽田空港のシェアは微減傾向。

方面別



空港別



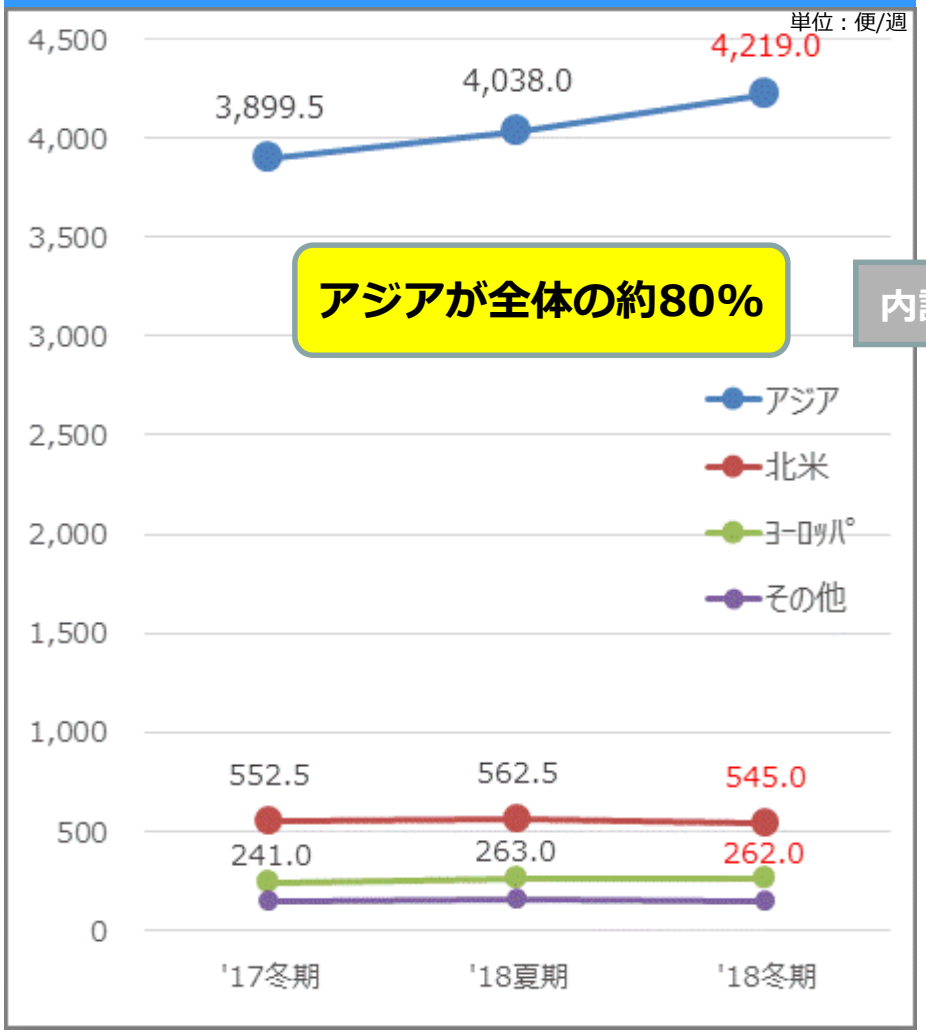
※'18冬期（外側）、'18夏期（中間）、'17冬期（内側）の各期における各方面/空港の占める便数割合

2018冬期 国際線（旅客便）方面別推移

国土交通省

旅客便全体の約80%を占めるアジア方面の増加傾向が継続。特に済州航空やイースター航空、大韓航空の韓国社の増便等により韓国方面が大幅に増加。
また、スターフライヤーや華信航空の新規開設・タイガーエア台湾の増便により台湾方面も着実に増加。

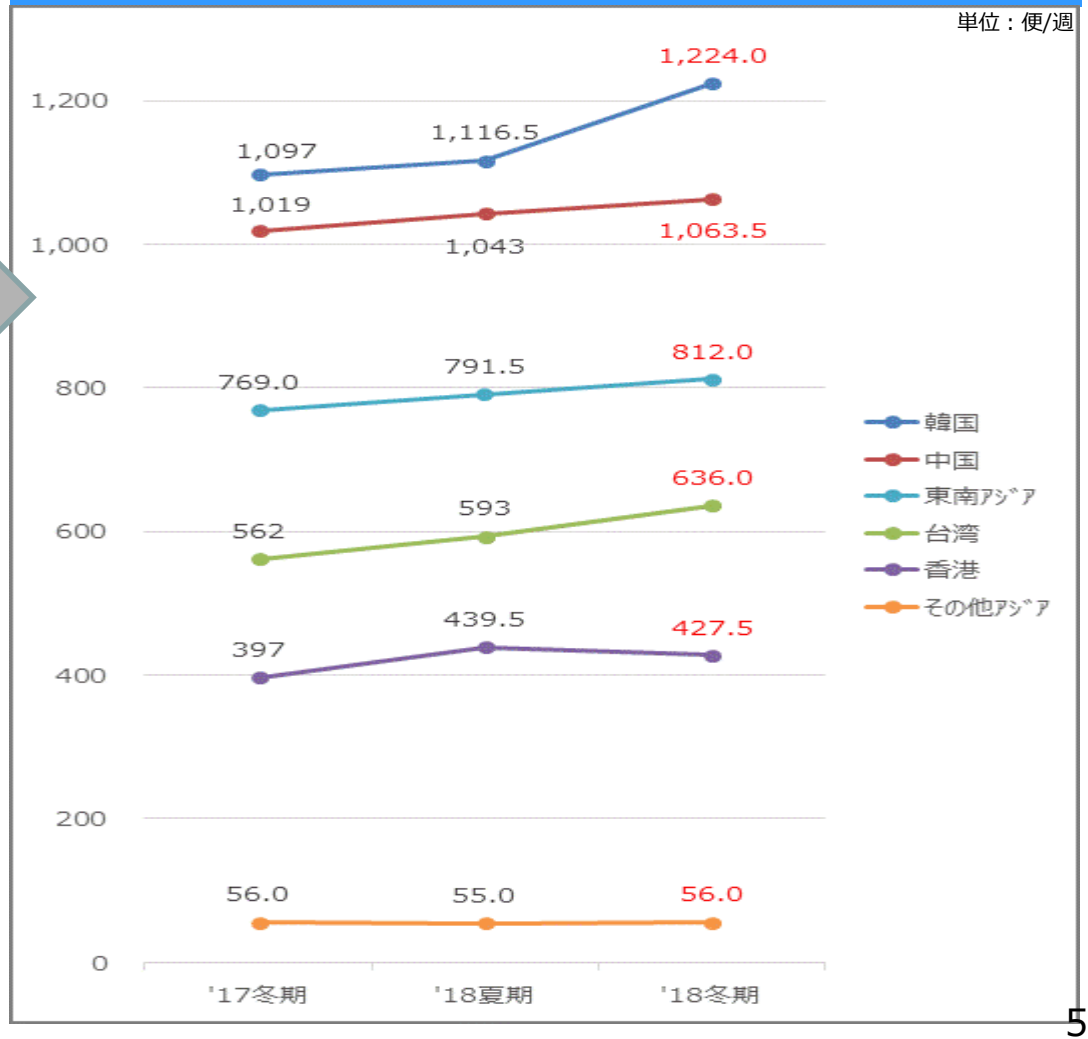
方面別内訳



アジアが全体の約80%

内訳

アジア内訳



2018冬期　国際線（旅客便）　空港別推移（成田・羽田）

国土交通省

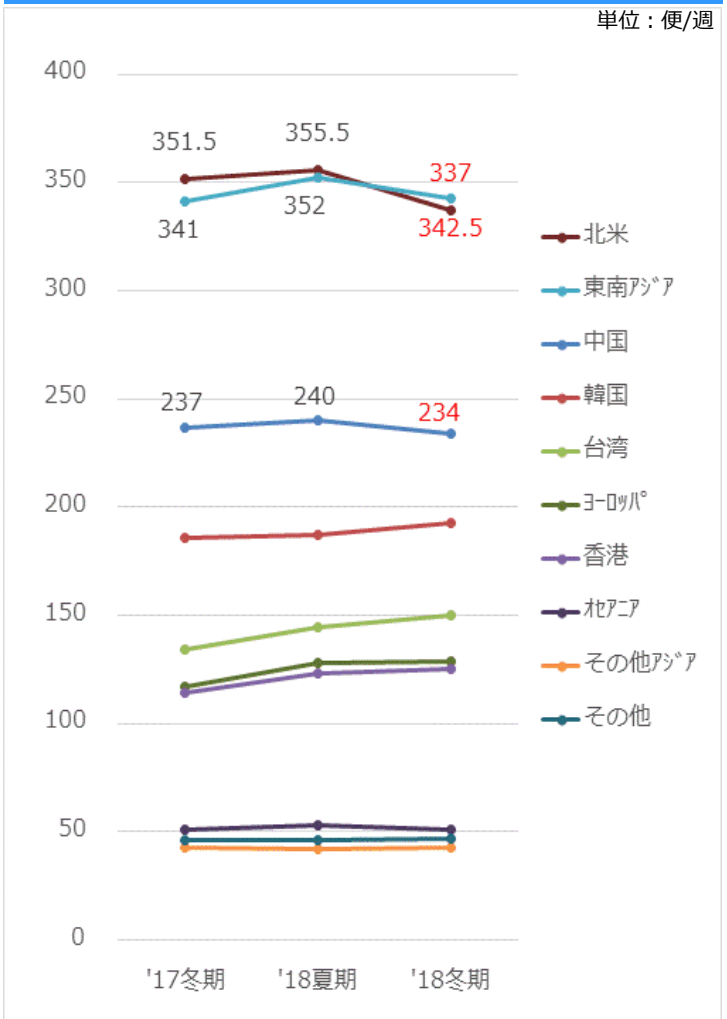
【成田】北米方面ではデルタ航空がホノルル線、サイパン線、パラオ線を運休し、全日本空輸がロサンゼルス線を減便（期中復便予定）。また、バニラエアがセブ線を運休。一方、済州航空が仁川線、大邱線を増便、華信航空が台中線を初就航。
【羽田】全日本空輸がバンコク線を増便（18夏期中～）。ニュージーランド航空がオークランド線を運休。

単位：便/週

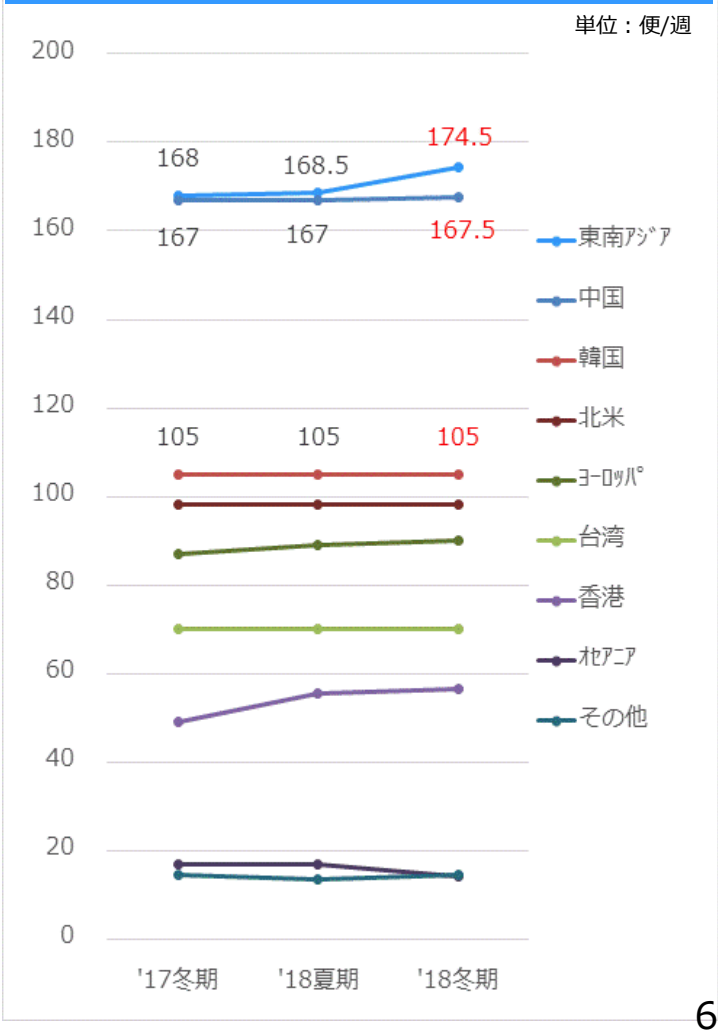
成田	'17冬期	'18夏期	'18冬期
北米	351.5	355.5	337
東南ｱｼﾞｱ	341	352	342.5
中国	237	240	234
韓国	186	187.5	193
台湾	134.5	144.5	150
ﾖｰﾛｯﾊﾟ	117	128	128.5
香港	114	123.5	125
ｵｾｱﾆｱ	51	53	51
その他ｱｼﾞｱ	43	42	43
その他	46	46	47
合計	1621	1672	1651

羽田	'17冬期	'18夏期	'18冬期
東南ｱｼﾞｱ	168	168.5	174.5
中国	167	167	167.5
韓国	105	105	105
北米	98	98	98
ﾖｰﾛｯﾊﾟ	87	89	90
台湾	70	70	70
香港	49	55.5	56.5
ｵｾｱﾆｱ	17	17	14
その他	14.5	13.5	14.5
合計	775.5	783.5	790

成田



羽田



2018冬期　国際線（旅客便）　空港別推移（関西・中部）

国土交通省

【関西】韓国方面ではティーウェイ航空、大韓航空及び済州航空が仁川線、済州航空が務安線、清州線、ティーウェイ航空が大邱線、イースター航空が清州線、釜山線を増便。中国方面では中国南方航空が天津線、南京線、済南線をそれぞれ増便、中国東方航空が太原線を初就航。北米方面では済州航空がグアム線（以遠路線）を、日本航空がホノルル線(18夏期中～）をそれぞれ増便。一方、香港方面では、全日本空輸が香港線（期中復便予定）を運休。

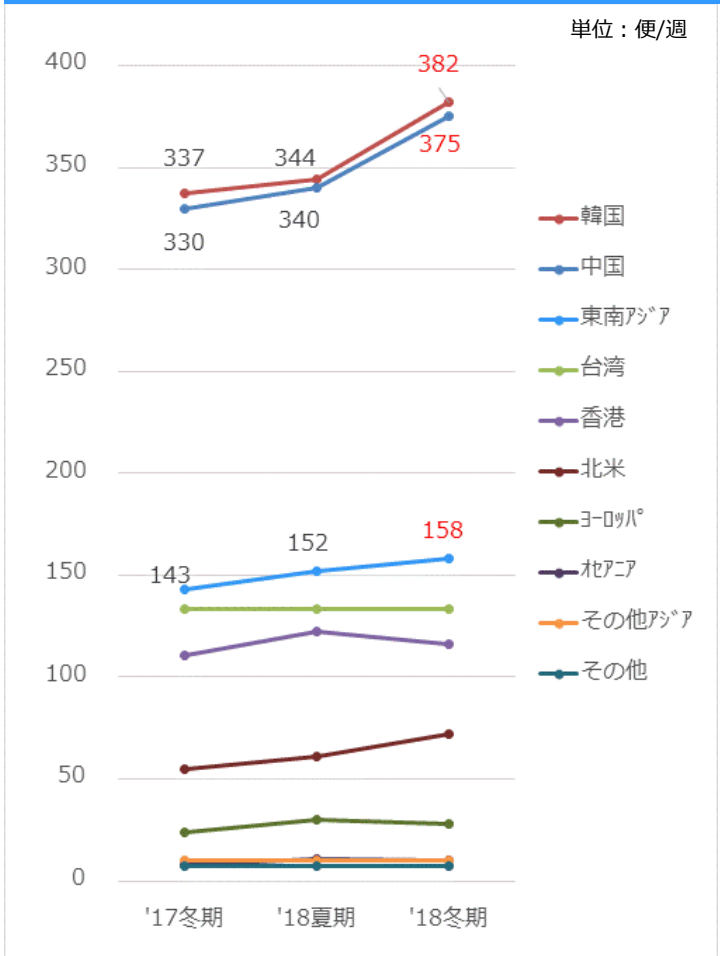
【中部】スターフライヤーの台北線開設により台湾方面が、タイエアアジアXのﾊﾞﾝｺｸ(ﾄﾞﾝﾑｱﾝ）線増便によりタイ方面が増便。一方、全日本空輸の上海線が運休、ユナイテッド航空のグアム線が運休。

単位：便/週

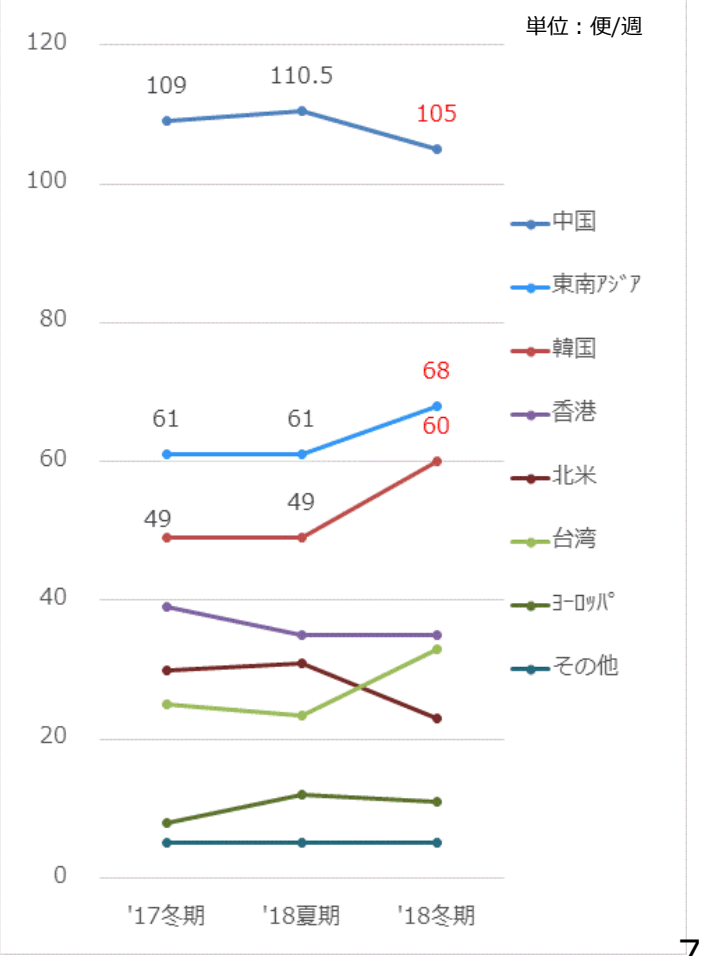
関西	'17冬期	'18夏期	'18冬期
韓国	337	344	382
中国	330	340	375
東南ｱｼﾞｱ	143	152	158
台湾	133	133	133
香港	110.5	122.5	116
北米	55	61	72
ﾖｰﾛｯﾊﾟ	24	30	28
ｵｾｱﾆｱ	8	11	10
その他ｱｼﾞｱ	10	10	10
その他	7	7	7
合計	1157.5	1210.5	1291

中部	'17冬期	'18夏期	'18冬期
中国	109	110.5	105
東南ｱｼﾞｱ	61	61	68
韓国	49	49	60
香港	39	35	35
北米	30	31	23
台湾	25	23.5	33
ﾖｰﾛｯﾊﾟ	8	12	11
その他	5	5	5
合計	326	327	340

関西



中部



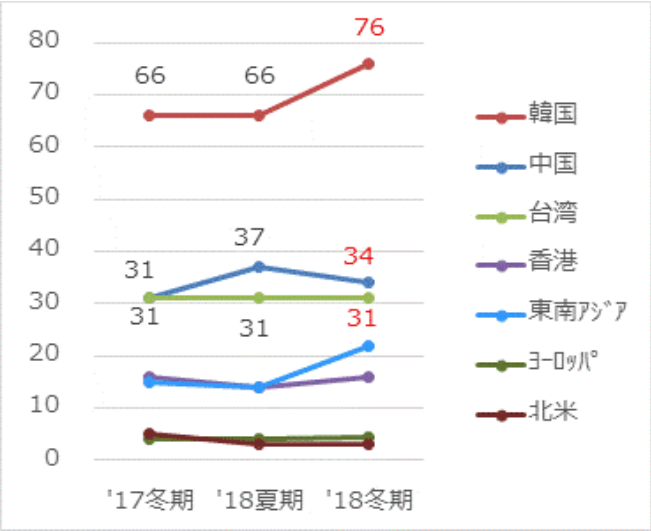
2018冬期　国際線（旅客便）　空港別推移（新千歳・福岡・那覇）

国土交通省

【新千歳】済州航空の仁川線増便、大韓航空の釜山線、ｲｰｽﾀｰ航空の仁川線増便により韓国方面が増加。また、ﾀｲｴｱｱｼﾞｱXがﾊﾞﾝｺｸ(ﾄﾞﾝﾑｱﾝ）線を増便 。
【福　岡】大韓航空、エアソウル及び済州航空の仁川線増便により韓国方面が、ベトナム航空のハノイ線増便等によりベトナム方面がそれぞれ増加。
【那　覇】バニラエアの台北線増便や中華航空の高雄線増便により台湾方面が、エアソウル、イースター航空及び済州航空の仁川線増便等により韓国方面が増加。

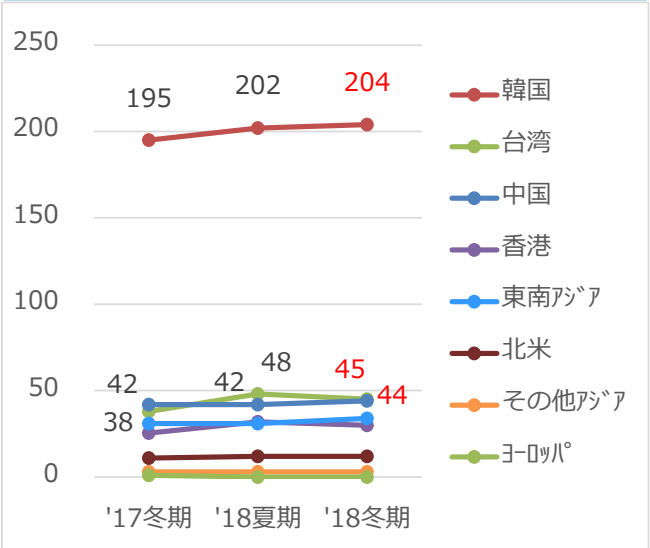
単位：便/週

新千歳	'17冬期	'18夏期	'18冬期
韓国	66	66	76
中国	31	37	34
台湾	31	31	31
香港	16	14	16
東南ｱｼﾞｱ	15	14	22
ﾖｰﾛｯﾊﾟ	4	4	4.5
北米	5	3	3
合計	168	169	186.5



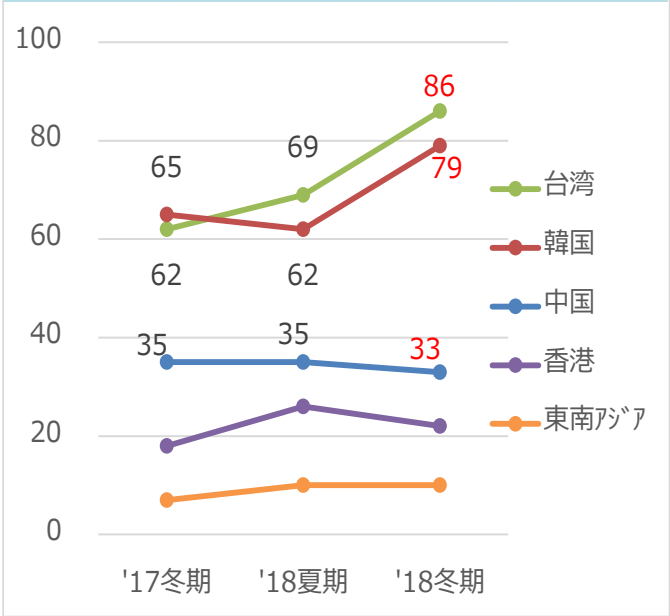
単位：便/週

福岡	'17冬期	'18夏期	'18冬期
韓国	195	202	204
台湾	38	48	45
中国	42	42	44
香港	25.5	32	30
東南ｱｼﾞｱ	31	31	34
北米	11	12	12
その他ｱｼﾞｱ	3	3	3
ﾖｰﾛｯﾊﾟ	1		
合計	346.5	370	372



単位：便/週

那覇	'17冬期	'18夏期	'18冬期
台湾	62	69	86
韓国	65	62	79
中国	35	35	33
香港	18	26	22
東南ｱｼﾞｱ	7	10	10
合計	187	202	230



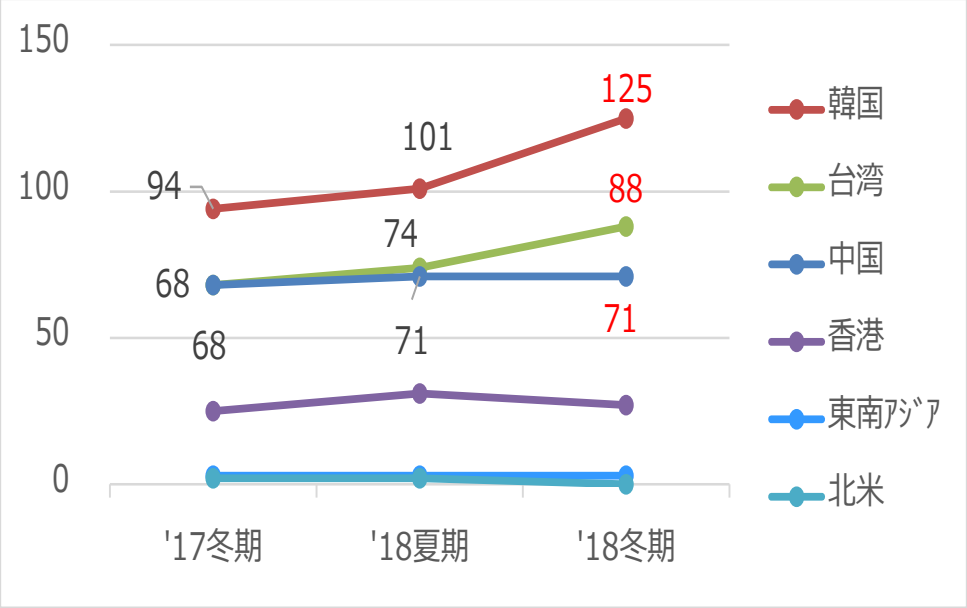
2018冬期　国際線（旅客便）　空港別推移（その他 地方空港）

国土交通省

【花巻】タイガーエア台湾が台北線を初就航(18夏期中～)　。
【北九州】ｽﾀｰﾌﾗｲﾔｰが台北線を初就航、ﾃｨｰｳｪｲ航空が務安線を増便 。
【熊本】ﾃｨｰｳｪｲ航空が、大邱線を初就航。
【茨城】タイガーエア台湾が台北線を初就航 。
【佐賀】タイガーエア台湾が台北線を初就航 。
【鹿児島】済州航空が、大邱線を初就航 。

単位：便/週

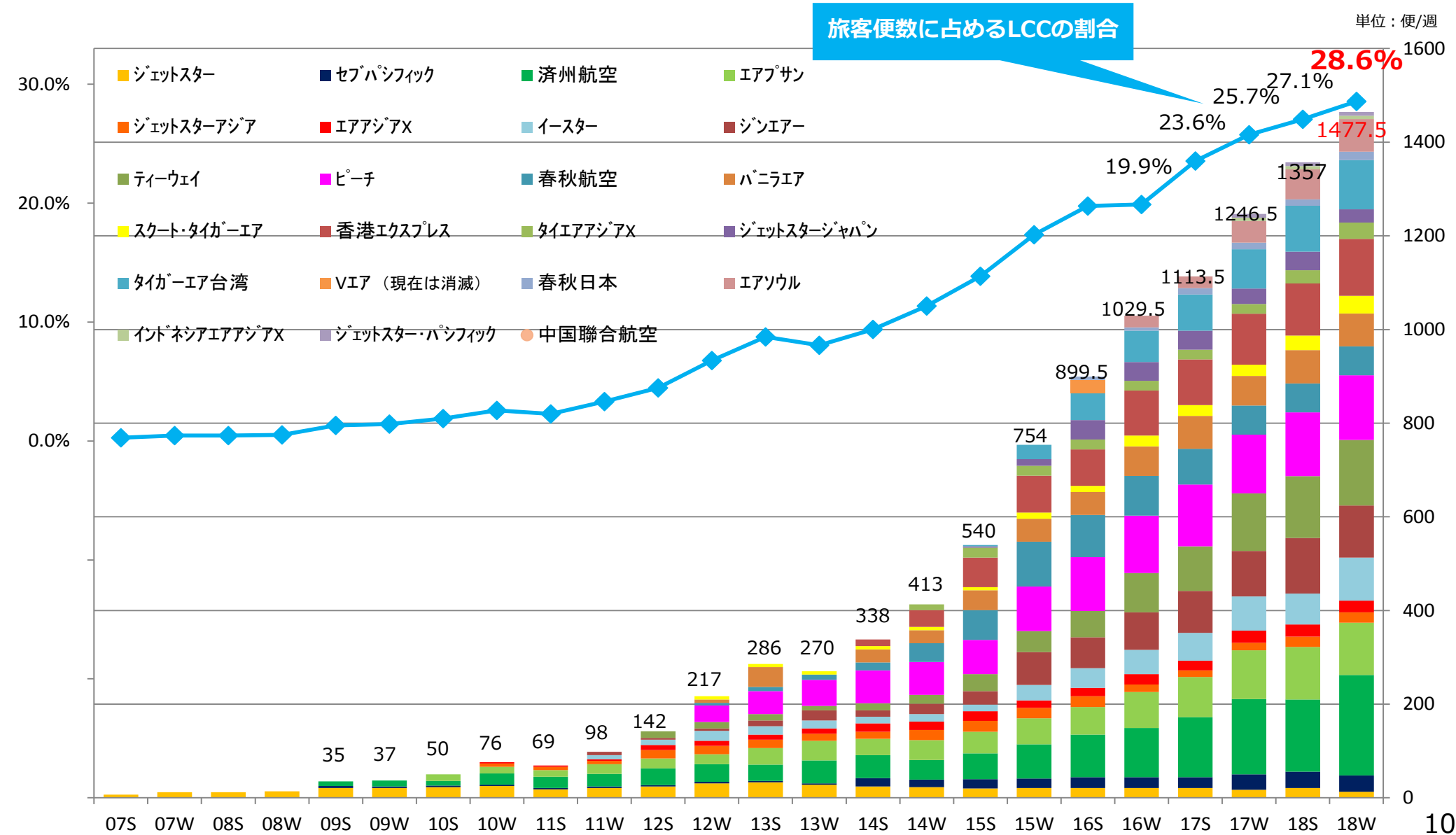
その他	'17冬期	'18夏期	'18冬期
韓国	94	101	125
台湾	68	74	88
中国	68	71	71
香港	25	31	27
東南ｱｼﾞｱ	3	3	3
北米	2	2	
合計	260	282	314



単位：便/週

空港	17冬期	18夏期	18冬期
函館	11	12	12
旭川	0	2	0
青森	7	5	7
花巻	0	0	2
仙台	26	21	26
茨城	6	6	11
新潟	10	10	10
静岡	23	22	18
富山	8	11	9
小松	12	14	14
高松	20	20	22
松山	3	5	7
米子	5	7	8
岡山	21	23	23
広島	29	30	27
山口宇部	3	0	3
北九州	14	14	29
長崎	5	5	5
大分	7	7	7
佐賀	10	12	12
熊本	9	12	15
宮崎	7	11	10
鹿児島	22	26	35
石垣	2	8	2
合計	260	282	314

2018冬期 国際線 LCC便数推移

国土交通省

LCCは、期首時点において22社が運航し、全体で1,477.5便/週。'18夏期比で120.5便/週増加。
特に、韓国社が92便/週、タイ社が18便/週とそれぞれ大幅に増加。